



シソバタツナミ

## 1、特定外来生物ウシガエルの駆除

Q・R地点は2020年度にバックホーによる抜根作業を行い、旧水田を復元しました（葦毛通信 No. 105～107 参照）。復元した水田は小さな池状になりましたが、ウシガエルが出現し籠ワナによる駆除を始めました（葦毛通信 No. 115 参照）。ウシガエルは北米原産の外来種で、動くものはなんでも食べてしまい在来生物に大きな影響を与えるため、環境省により特定外来生物に指定され駆除対象になっています。ウシガエルの駆除は2021年7月26日から実験的に始め、8月には3か所での駆除を開始し現時点でほぼ1年が経過しましたので、結果を報告します。

### 1) 駆除方法

ウシガエルは見かけるのが小型の幼体だったので、最初に釣具店で直径15cm程度のエビ網を買って、釣り竿の先端に付けて直接捕獲しようとした。捕獲は可能でしたが、すぐに泥の中に隠れてしまい効率良く捕獲できる方法ではありませんでした。

そこで、ワナを使って捕獲することにしました。釣具店から購入した1000円程度のカニ籠を日陰になり隠れ場所になるように寒冷紗を掛けて、エサを入れずに設置しました。当初は実験的に小型の籠ワナ1基と円筒形の小さな籠ワナ2基も設置しましたが、ツチガエルのオタマジャクシ、カワニナ、トンボのヤゴ、マツモムシ等の水生昆虫が混獲されるだけだったので、2022年4月7日に撤去しました。なお、混獲された生物については、葦毛通信 No. 121で報告しました。

設置した籠ワナは60×40×20cmの大きさのものを3基で、設置場所は復元した旧水田のうち池状になった③・④・⑥の3か所です（場所は葦毛通信 No. 113 参照）。

籠ワナは設置後、一週間に1回程度捕獲状況を確認しました。捕獲したウシガエルは殺処分にし、混獲されたその他の生物は記録を取って逃がしています。

籠ワナを設置する際は、岸側が高くなり、水面から出るように若干斜めにして設置しています。全体が完全に水没すると捕獲されたカエル等の両生類や爬虫類が呼吸できなくなって死んでしまいます。ウシガエルだけなら問題ありませんが、混獲される在来種の生物

回数	日付	③	④	⑥	小計	累計
1	2021/8/6	5			5	5
2	2021/8/23	2			2	7
3	2021/8/30	1	1		2	9
4	2021/9/19	1			1	10
5	2021/10/6			1	1	11
6	2021/10/7		1		1	12
7	2021/10/14	3			3	15
8	2021/10/19	1		1	2	17
9	2021/10/26	4			4	21
10	2021/11/2	1		1	2	23
11	2022/3/17			1	1	24
12	2022/4/7			3	3	27
13	2022/4/13			1	1	28
14	2022/4/19			1	1	29
15	2022/4/28			1	1	30
16	2022/5/10			1	1	31
17	2022/5/17			2	2	33
18	2022/5/25			1	1	34
19	2022/5/30			1	1	35
20	2022/6/22		1	1	2	37
21	2022/6/30	1			1	38
22	2022/7/3			1	1	39
23	2022/7/9			1	1	40
24	2022/7/13			1	1	41
25	2022/7/17	1			1	42
26	2022/7/25		1		1	43
27	2022/7/28		1		1	44
	合計	20	5	19	44	

を逃がすためには必要な措置です。

また、殺処分したウシガエルは、旧水田脇を流れる水路の大きな石の上に置いて様子を観察しましたが、いずれの場合も1～2日程度でなくなるので、タヌキ等の動物が来て食べていると思われます。いずれ、機会を見て赤外線カメラで確認しようと考えています。

## 2) 成果

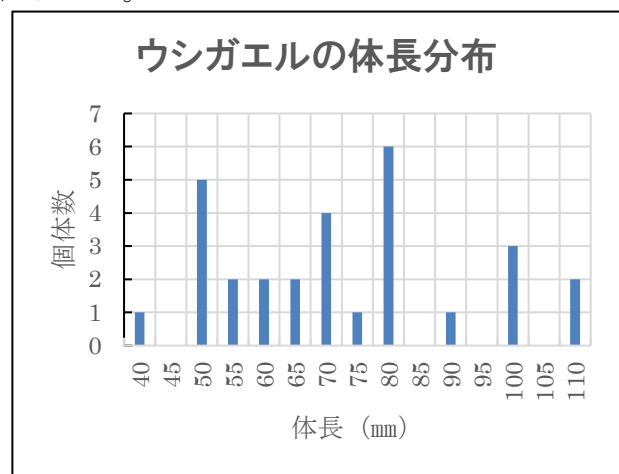
2021年8月から2022年7月までの一年間では、捕獲回数27回で44頭のウシガエルが捕獲されました(前頁表)。年間を通して同じように捕獲されるのではなくバラつきがあります。2021年11月2日に2頭が捕獲されましたが、その後2022年3月17日までは全く捕獲されませんでした。ウシガエルは冬眠して活動していなかったと思われます。

地点ごとの捕獲数にもばらつきがあります。捕獲を始めた2021年では旧水田③で多くのウシガエルが捕獲されましたが、2022年3月以降は旧水田⑥で多く捕獲されています。旧水田⑥は一年中水がありますが、旧水田③・④は水量が少なくなつて干上がっている時期もあったので、捕獲数が少なかったのかもしれませんが。

捕獲されたウシガエルは体長40～110mmの幼体で、150mm以上の成体は葦毛湿原では確認されていません。成体のウシガエルは、葦毛湿原から500mほど下流にある長尾池に多くいて繁殖しており、長尾池から周辺に幼体が拡散していると思われます。葦毛湿原内ではまだ繁殖は確認されていませんが、60mm程度のオタマジャクシは確認されており、幼体と同様に長尾池から水路を伝って侵入してきたものと思われます。

以上のように籠ワナによるウシガエルの捕獲は、一定の効果があったと考えています。

葦毛湿原では出現確認後すぐに対処して定着しないようにしていますが、抜本的な駆除は下流にある長尾池で徹底的に行う必要があります。



## 3) 混獲された生物

ウシガエルを捕獲するために設置した大型で角型の籠ワナで混獲された生物は爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、貝類、昆虫等多岐にわたり、11種、50匹が確認されました。これ以外に実験的に設置した小型で角型の籠ワナや丸ワナには、水生昆虫を中心に様々な生物が捕獲されています。右表の黄色の生物は呼吸が確保されて逃がすことができました。

最も多いのはカワムツでモクズガニとギンヤンマのヤゴも多く入っていました。

アオダイショウとマムシはワナに入ったカエル等を狙って入ったものと思われます。アオダイショウは1mくらいの長さでしたが網目に挟まって出られなくなっていたので網の一部を切って逃がしました。その時、オタマジャクシを吐き出したので、ワナに入った動物を捕食することが目的で入ったと確認できました。マムシはまだ幼体で細かったのでワナを持ち上げたときに網目をすり抜けて逃げていきました。モクズガニは甲幅40～70mmでオス・メスともに確認されました。また、カワムツは食べられていたものが確認されて

混獲された生物		
番号	種名	頭数
1	アオダイショウ	1
2	マムシ	1
3	ニホンイシガメ	2
4	アズマヒキガエル	2
5	ツチガエル	4
6	トノサマガエル	2
7	カワムツ	15
8	ホトケドジョウ	3
9	モクズガニ	8
10	カワニナ	3
11	ギンヤンマ(ヤゴ)	9
合計		50

おり、モクズガニやニホンイシガメ等に捕食された可能性があります。大型の籠ワナなので網の目が大きく大きな生物が入っていますが、小さな生物は網の目からすり抜けていると思われます。実験的に設置した小型で角型の籠ワナと小型で丸型のワナは網の目が小さく、トンボのヤゴ等の水生昆虫を中心にホトケドジョウやツチガエルのオタマジャクシ等が混獲されています（葦毛通信 No. 121 参照）。

池状になった旧水田の生物を調査するためにワナを設置したわけではないので、確認された生物は偏っていると思われます。本格的な生物調査を行えば、水生昆虫を中心に多くの生物が確認できると思います。

葦毛湿原ウシガエル籠ワナ混獲記録						
番号	日付	③	④	⑥	小計	混獲動物種
1	2021/8/5			1	1	カワムツ1匹(計測せず)
2	2021/9/21			3	3	カワムツ1匹、ホトケドジョウ2匹(計測せず)
3	2021/10/6	2			2	モクズガニ♀1匹(50mm)、アズマヒキガエル1匹(100mm)
4	2021/11/23			1	1	モクズガニ♀1匹(50mm)
5	2021/11/30			2	2	カワムツ2匹(100・130mm)
6	2021/12/1			6	6	カワムツ6匹(100~150mm)
7	2021/12/8			2	2	カワニナ2匹(15mm)
8	2021/12/21			4	4	カワムツ4匹(100~150mm)
9	2021/12/28			5	5	カワムツ1匹(120mm)、ニホンイシガメ1匹(166mm)、ギンヤンマヤゴ2匹(42・43mm)、カワニナ1匹(26mm)
10	2022/1/12			1	1	ギンヤンマヤゴ1匹
11	2022/3/1			1	1	ホトケドジョウ1匹
12	2022/3/8			1	1	ギンヤンマヤゴ1匹(40mm)
13	2022/3/15			2	2	ギンヤンマヤゴ2匹(45・50mm)
14	2022/3/17			1	1	アズマヒキガエル1匹(130mm)
15	2022/3/23			2	2	モクズガニ♀1匹(60mm)、ギンヤンマヤゴ1匹(50mm)
16	2022/3/29			2	2	ギンヤンマヤゴ2匹(50mm)
17	2022/5/10			1	1	ツチガエル1匹(55mm)
18	2022/5/17			1	1	トノサマガエル1匹(65mm)
19	2022/5/30			1	1	モクズガニ♂1匹(40mm)
20	2022/6/12			1	1	モクズガニ♂1匹(55mm)
21	2022/7/3			1	1	ツチガエル1匹
22	2022/7/9			1	1	ニホンイシガメ1匹
23	2022/7/17			2	2	モクズガニ♀1匹(70mm)、アオダイショウ1匹
24	2022/7/25	1	1		2	モクズガニ♀1匹(45mm)、ツチガエル1匹
25	2022/8/2		1	3	4	モクズガニ♀1匹(50mm)、トノサマガエル1匹、ツチガエル1匹、マムシ1匹
	合計	3	2	45	50	



ニホンイシガメ 2021年12月28日

アオダイショウ (2022年7月17日)





アズマヒキガエル



ツチガエル



トノサマガエル



カワムツ (2021年12月21日)



ホトケドジョウ (2022年3月1日)



モクスガニ♀ (2022年3月23日)



モクスガニ♂ (2022年6月12日)



ギンヤンマ (2022年3月29日)



カワニナ (2021年12月8日)